

『おばけのおめめ』 2歳児 5月



エピソード

「せんせい、こっち」と園庭で遊んでいる時に、突然 A ちゃんが保育者のもとへ来て、手を引っ張りました。「なに?なに?」と保育者が A ちゃんに聞くと、「こっちこっち、おめめ」と、影がある場所を指さしました。その正体は、寒冷紗の影で、継ぎ目の部分に日が入り、目のような形をしていました。

風が吹くと動いたり、友達が通ると消えたりすることが、不思議に思ったようで、「おばけのおめめ」と言いながら見ていました。風で動くとき少し怖がっていましたが、友達が通ったり自分の影が重なったりして影が消えると、「あれ?」と言いながら近づいて覗きこみ、また影が現れると、「うわ!おめめ、あった」と、目を大きく見開いて保育者の方を見て驚きながらも、面白さを知らせていました。

保育者の思い

- ・日が当たっているところは明るい、影があるなど、遊びの中でのいろいろなことに気付いてほしい。
- ・影の存在に気づき、「お化けの目」という子どものイメージを受け入れ、子どもの思いを大事にしていきたい。
- ・なぜ「目」が消えたり現れたり動いたりするのか、不思議さを感じてほしい。
- ・面白さ不思議さ驚きなど子どもの思いに共感し、感性を育てたい。

子どもの育ちや学び

- ・視野が広がったことで、寒冷紗の影に注目するなど、気づきや発見する力、観察しようとする力が育っています。
- ・影と光の部分が目の形に見えるイメージ力が育っています。
- ・なぜ影が動くのか、消えるのかなど不思議さを感じながら考えることが思考力にも繋がります。
- ・驚きや不思議さ面白さを、保育者と共感したい思いが、人との関わりの育ちに繋がります。

家庭だったら・・・

- ・天気の良い日に出かけたときに、子どもたちと一緒に影を見てみてはどうでしょうか? 影のいろいろな動きに興味を示すかもしれません。そんな時、子どもたちの気付きに共感してください。